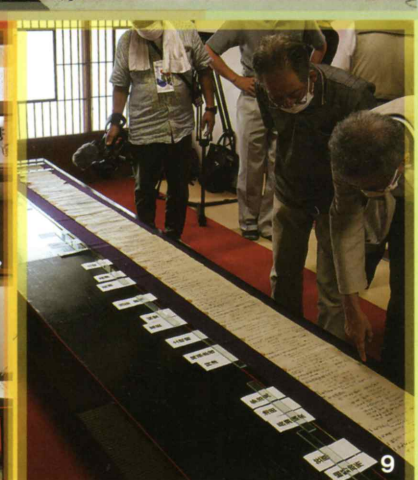
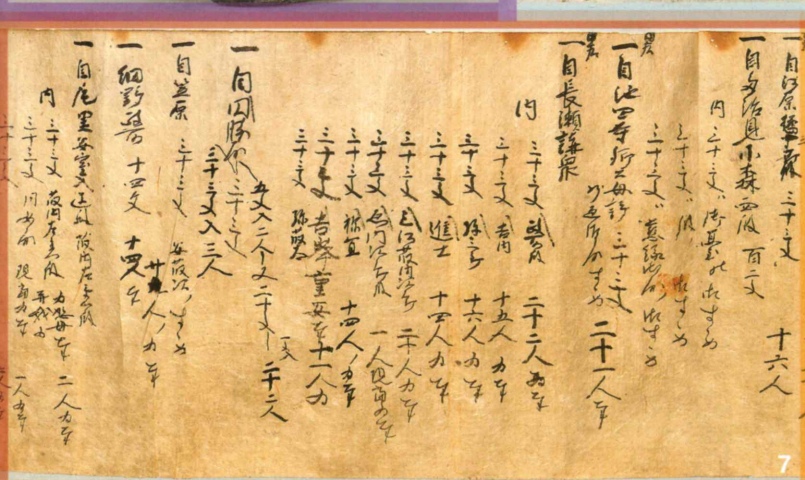
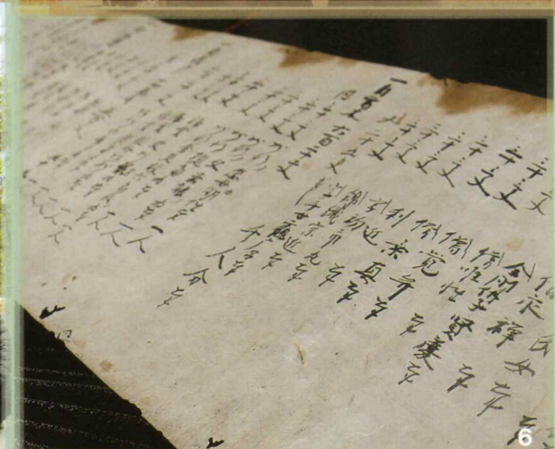
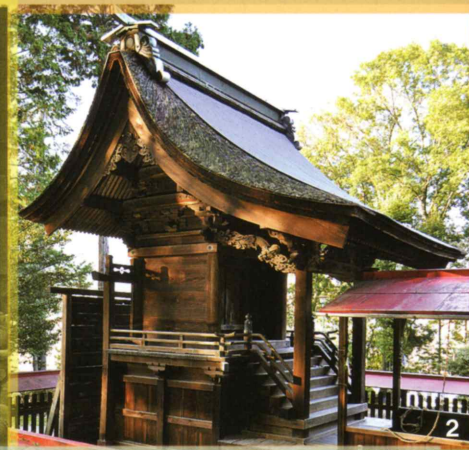


特集

新指定の文化財 多度神社本殿・長福寺文書

多度神社本殿と長福寺文書「美濃国池田御厨某寺奉加帳」が、令和4年1月26日に新しく多治見市有形文化財に指定されました。これら2つの文化財について次項で詳しく紹介します。



- 1 多度神社本殿の龍が彫刻された海老虹梁
- 2 多度神社本殿全景
- 3 多度神社本殿の指定書授与式の様子
- 4 天保12年の銘がある陶製狛犬(多度神社所蔵)

- 5 地域の方々が指定に向けて尽力されました
- 6、7 長福寺文書には長瀬、笠原など今も残る地名が書かれています
- 8 長福寺文書の指定書授与式の様子
- 9 指定に先立って行った記者会見の様子

新指定文化財紹介

たど 多度神社本殿

つかけたりむなふだ

附棟札・陶製狛犬・木槌



こうはいみずひきこうりょう なかぞな
向拝水引虹梁と中備え (表)

所在地 平和町1丁目123番地 天保12年(1841)再建

多度神社は天正元年(1573)9月29日伊勢国(三重県)桑名郡多度村に鎮座する多度神社を勧請し、美濃国土岐郡多治見村脇郷(現平和町)と下之洞郷(現京町)の産土神として奉祀したと伝えられています。

本殿は天保12年(1841)に再建されたもので、一間社流造の檜皮葺、大工棟梁は野村専右衛門、葺師は伊藤喜三郎です。野村専右衛門は池田町屋村(現池田町)に在住し、長福寺中門や奥蔵寺観音堂、神留寺庫裡(可児市)などの再建にも携わっています。本殿の各所にみられる彫刻は素晴らしく、海老虹梁の「龍と雲」や中備えの「波に飛龍」などは実に見事です。

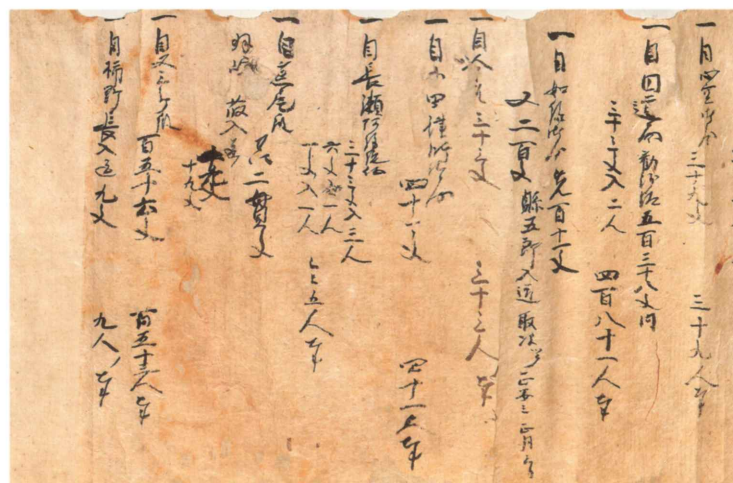
また、附指定となった棟札、陶製狛犬、木槌には多度神社の建物の修理や大工名、奉納日等が書かれており、多度神社の歴史を知ることができます。

←棟札(天保12年) 多度神社所蔵

ちようふくじ みののくにいけだのみくりやぼうじほうがちよう 長福寺文書「美濃国池田御厨某寺奉加帳」

長福寺所蔵 鎌倉時代 正安3年(1301)頃

青龍山長福寺は真言宗智山派の寺院で、寺伝によれば元弘年間(1331~1334)に当時の長瀬の領主であった土岐源氏の源頼氏が創建したとされます。頼氏は永保寺の創建、本土神社社殿修復にもかかわった長瀬郷の有力領主



↑奉加帳最後尾部分

です。この奉加帳は、寺院建立または仏像造営に関わる寄付金を募った名簿です。資料の後半に「正安三(年)正月三日」の書き込みがあり、正安3年(1301)頃に作製された文書であると考えられます。市内で確認されている古文書では最も古いものです。

奉加帳の寄付者は東濃地域、名古屋～春日井の地域と広範囲に広がっており、土岐源氏などの武士や僧尼、庶民も含まれ、総人数は1万人を超えます。この文書から当時の村の様子を重層的に知ることができ、美濃の中世武士集団や寺院などの歴史を知る上でも非常に貴重な資料です。

新収蔵資料

まえだせいそん

こけい 前田青邨画「古溪

すいげつがま

水月窯」(1967年)

前田青邨(1885-1977)は岐阜県恵那郡(現中津川市)出身の日本画家で、歴史画を得意とし戦後の日本画界を牽引してきた人物です。法隆寺金堂壁画修復や高松塚古墳壁画模写にも携わるなど文化財行政の面でも活躍しました。

また、青邨は陶芸作品も多く残しており、荒川豊蔵と交流があったことでも知られています。この作品の題材となっている水月窯は豊蔵が開いた美濃の伝統的窯業生産技術を現代に伝える窯です。東濃出身の画家が多治見の窯を描いたこの作品は、多治見市にとって貴重な資料のひとつです。





大沢10号・11号・14号窯跡発掘調査

令和3年8月から令和4年2月までの7か月間に亘り、大沢10号窯跡、大沢11号窯跡及び大沢14号窯跡の発掘調査を行いました。これらは多治見市西部の高台に位置し、中世の生活雑器である山茶碗を焼いた窯跡です。窯の年代は、鎌倉時代後半の13世紀後半から14世紀初頭頃です。10号窯跡と11号窯跡は、横並びの状態で築かれていました。

多治見市域では、良質の粘土と燃料となる山林資源が豊富な地であったことから、古くから盛んにやきものが作られており、今回もたくさんの陶片が出土しました。これらの窯跡や出土遺物から当時の情景が目に浮かんできます。



↑ 大沢10号窯跡(左)、大沢11号窯跡(右)
↓ 大沢14号窯跡



↑ 重ね焼きされた山茶碗の碗
(大沢11号窯跡出土)



↑ 山茶碗の碗(大沢14号窯跡出土)

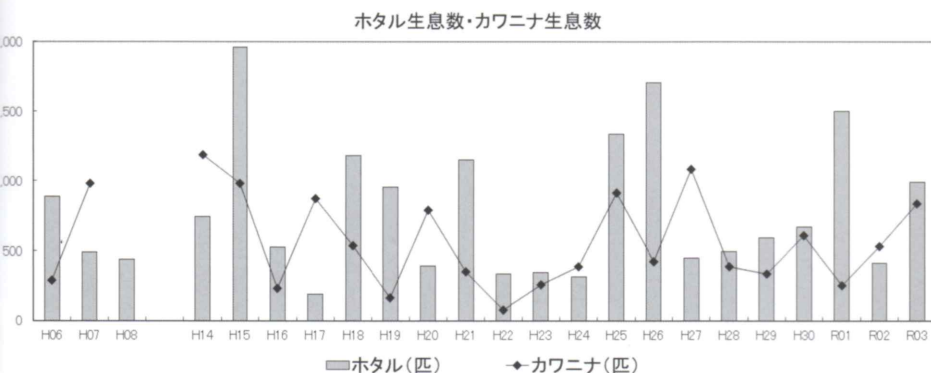
カワニナ生息数調査

市天然記念物「北小木のホタル」の調査の一環として、ホタルの幼虫の餌であるカワニナ(巻貝の一種)の生息数調査を北小木川と神明洞川で毎秋に行っています。今年度の調査も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティアを募集せず文化財保護センターの職員のみで10月29日の午前中に行いました。

今年度のカワニナ生息数は、平成28年度の調査以降、最も多い数となりました。体長は10mm以上から15mm未満のものが最も多い結果となりました。カワニナを多く確認できた年の翌年はホタルが大発生する傾向にあることから、今年のホタル発生数は昨年より増えることが予測できます。



↑ 調査地点ごとにカワニナをトレイに取り上げます
↓ カワニナ



令和4年度上半期 文化財保護センタースケジュール

4月

企画展 「多治見市有形文化財指定記念 多度神社展」

新しく市有形文化財に指定された多度神社本殿。
これを記念して多度神社の建築や歴史を紹介する
企画展を開催しています。

期間 2月14日(月)～6月24日(金)

場所 文化財保護センター展示室 入場無料



5月

文化財講座「多度神社見学会」

企画展「多度神社展」の関連講座として見学会を開催します。

日時 5月14日(土) 午前11時～12時 (小雨決行)

場所 多度神社(平和町1丁目123番地)

定員 20人 参加費無料

講師 麓 和善氏(名古屋工業大学名誉教授)

申込み 4月4日(月)午前9時より 電話、FAX、E-mailにて(先着順)

5～6月

北小木川の草刈および北小木のホタル生息数調査

市天然記念物「北小木のホタル」の住みやすい環境作りのため北小木川
の草刈やホタルの生息数調査をします。草刈(5月の日曜日)、生息数調
査(6月の月・木曜日の午後8時開始)はボランティアを募集します。
詳細は広報たじみ5月号をご覧ください。



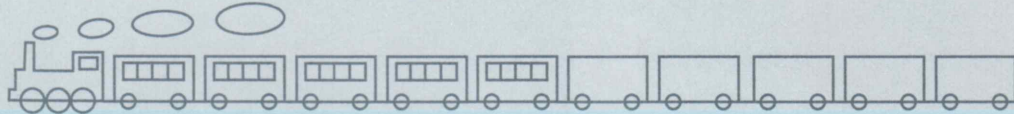
7月

企画展「多治見の鉄道史(仮)」

今年は、日本に鉄道が誕生して150周年。鉄道によって、人や物の
交通はより盛んになりました。多治見では明治33年(1900)に名古
屋-多治見間の中央線が開通したのが鉄道の始まりです。その後、
昭和3年には太多線、笠原鉄道が開通しました。本企画展では多
治見における鉄道の歴史を収蔵品などから紹介します。

期間 7月4日(月)～12月23日(金)

場所 文化財保護センター展示室 入場無料



※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては
上記の予定が変更・中止になる場合があります。

多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

E-mail:hogo-cen@city.tajimi.lg.jp

ホームページ: <https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

Twitter・Instagramアカウント: tajimi_bunkazai



〈利用案内〉開館時間: 9:00～17:00 (最終入館 16:30)

休館日: 土・日・祝日、年末年始

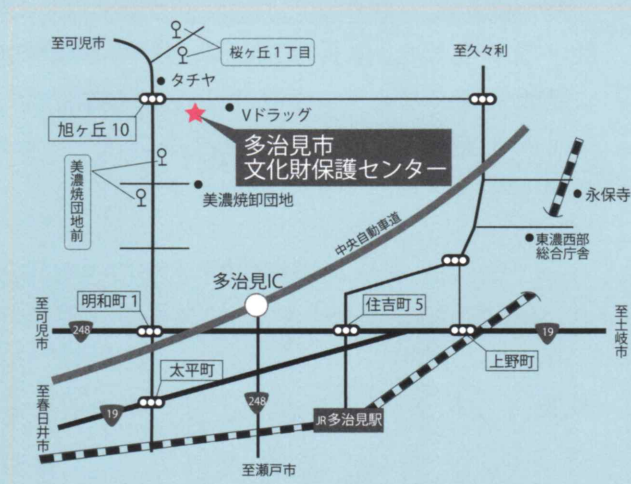
入場料: 無料

〈交通案内〉自動車: 多治見ICより車で10分

電車・バス: JR 多治見駅北口より東鉄バスにて

桜ヶ丘ハイツ線「桜ヶ丘1丁目」

または「美濃焼団地前」下車徒歩5分



自然と人の文化 No.59 2022年3月発行

編集/発行 多治見市文化財保護センター

発行部数: 1300部 (税込 43,901円) この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。